

# 北方生物圏フィールド科学センター 生物生産研究農場

教職員写真同好会 伊藤仁浩



# KIBO NO NIJI きぼうの虹

発行所  
北海道大学生協同組合  
札幌市北区北8条西7丁目  
教職員委員会編集  
電話 011-746-6218

## 主な記事紹介

- 二面 三面 ニホンザルこぼれ話 第3話
- 四面 台湾通信 最終回
- 五面 通常総代会報告

いい季節になってきましたね。いいかげん、このマスクも(いろんな意味で)鬱陶しくなってきたところです。私は、キツネの生態学と、キツネが人にうつすエキノコックスという寄生虫の疫学を研究しているので、時々キツネの巣穴を訪ねます。幸い、彼らは三密とは縁遠い河川敷や林の中にすんでいるので、巣穴に辿りつくまでの藪漕ぎ中はマスクを外しても大丈夫です。今時期はちよと、仔ギツネが活発に活動し始めるころです。親と違ってまだ警戒心の弱い仔ギツネが、私の気配を察して巣穴からひよこつと顔を出したりします。人の憂世の混乱とは関係なく、春は来るのだな、とほっとする瞬間です。

ですが、巣穴の前に着いたら再びマスクをつけなくてはなりません。エキノコックスに感染する危険性があるためです。目に見えないほど小さくて軽い虫卵がキツネのフンの中に潜んでいて、人がうっかり吸い込んだり口から体内に取り込んでしまふと、運悪くエキノコックス症にかかってしまうことがあります。「運悪く」と書いたのは、それほど感染力が強くないためですが、一方で、その「運悪く」感染してしまうと、10年かけて知らず知らずのうちに肝臓がむしばまれ、死に至る場合もあり

中でもかなり安全なエリアです。北大にやってくるキツネに、定期的に駆虫薬を飲ませているためです。ペットと違って「はい、あーん」とはいかないので、キツネの通り道に駆虫薬入りの餌(ベイト)を撒きます。実は、数年前から北大ではこの処置が続けられており、道立衛生研究所と北大獣医学院の共同研究によって効果が実証されています。

### 殺さなくても、防げます。

高等教育推進機構  
オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション  
教育研究部門 (CoSTEP)  
特任助教  
**池田 貴子**

## Opinion!



ます。そんなわけで、キツネに開く研究者は皆、マスクとゴミ手袋が手放せません。こんなふうには言えず、毎日北大に通う皆さんは不安に思いませんか。キャンパスでキツネを見かけたことのある方もいらつしやるでしょう。ですが、実は北大キャンパスは札幌市の

この方法が確立される前、媒介者であるキツネが駆除された時代がありました。ですが実際のところ、キツネを駆除してもエキノコックスを街から追い払うことはできません。よそからまた感染キツネがやってくるからです。エキノコックスは道民にとつて怖い風土病ですが、先人達の長きにわたる研究の末、無益な殺生をすることなく回避可能な感染症となったのです。

ところが、残念なことにはこのベイト散布法は一般にはまだほとんど知られていません。そのため、昔の名残でキツネの駆除を望む声もちらほらききます。だから私は、あちこちで「殺さなくても、防げます。」と話すことにしています。研究と社会が機能的につながるためには、互いが根気強くコミュニケーションをとる必要があるはず。いま世界中が闘っている敵の顔は、まだはっきりとは見えません。その点、エキノコックスの輪郭は、幸いなことにすでにかなり明瞭です。でもその顔は、今はまだ一部の人間しか知りません。敵の顔を社会全体が認識したときが、感染症克服のときなのだろうと思います。

(写真は、オシヤレして散歩している最中に不意にキツネの巣穴をみつけてしまい、そのまま藪漕ぎをする著者。実に悪い例。)

北大台湾同窓会会員  
北海道警視庁警務課長  
菅 大志  
風張 喜子



こんにちは、赤ちゃん。

新緑の林の中、群れのサルはみな思い思いの場所でもどろんでいます。時おり「ケツケツケツケツ」と新生児のおずかる声が聞こえてきます。何と穏やかで幸せな時間でしょう。

春はニホンザルの出産期です。ニホンザルは主に夜の間に出産します。出産があった翌朝には、へその緒がついたままで毛も乾いていないアカンボウを見ることができません。生まれてすぐのアカンボウでも手足の握る力は強く、一日中母親の胸にしがみついています。



ます。母親は出産の疲れからか、その日は休み休み群れの後ろをついて歩きます。アカンボウを抱えて歩くのに慣れていない新米の母親は、もつと大変そうです。アカンボウを自分の胸にくっつけるのに手こずっていたり、地面にこすらないように気にしてか、両腕両脚を目いっぱい伸ばして背伸び気味に歩いたり、とにかくぐいぐい育兒が始まります。ちなみに、ニホンザルには大きく分けるとアカンボウ・コードモ・ワカモノ・オトナの発達段階があり、生まれてから1年間はアカンボウと呼ばれます。

アカンボウは、生後1週間

頃から歩き始めるようになります。と言っても、後ろ脚の力が弱くて、最初は立っているだけでも精いっぱい。重い頭を支えきれずによるけりまうこともしばしばです。斜面なんかで動き始めると、見ているこちらがハラハラします。でも、母親はよく見ているもので、少しでもバランスを崩すとすかさず助けに入ります。そして、ヒトで赤ちゃんにハイハイや歩行の練習をさせる時にやる「ここまでおいで」も見られるようになります。

アカンボウが歩けるようになるとそれはそれで、危険がないように常に気を配っていないといけない母親は大変です。この頃のアカンボウは好奇心の塊で、興味を持ったものに触れよう、噛みよとどんでん動くようになります。

出かけようとすると子の手足や体を掴んで制止する母親の姿もよく目にします。危険回避のためでしょうか。それとも、「好き勝手に動き回られると、大変なのよ」ということでしょうか。そんな時に役に立つのが天然のベビーカー



目線を下げて、「ここまでおいで」

ルです。歩き始めのアカンボウは大きな段差を自力では移動できません。だからでしょうか。母親たちは、段差の大きな岩の上ではアカンボウを自由に動き回らせています。岩の上はまるでベビーカーです。その間に母親は目を

## いじわるじいさん

親戚が大豆をくれた。包んでいた『日本農業新聞』(3月24日)の「海外リスクが顕在化」が目に入る。小見出しが「コロナ禍で物流が停滞」。皺を伸ばして文字を追う▼中国産皮むき玉葱が、現地の移動制限で入荷激減、一時流通混乱とある。続けて記事

は18年度の食料自給率37%に触れ、食料安全保障に言及していた▼新型コロナウイルスが世界に広がる今、海外頼みの食料や飼料が安泰ということはないだろう。更に国内生産者に感染者が出たら、と不安が走る。自給率37%も危ない▼日本の食料自給率の推移を見ると、65年の70%から下がりに続いている。外国との比較では日本が最下位で(先進13カ国中、農水省資料)、ゾツとした▼なぜ低くなったのか。食生活の変化や従事者の高齢化だけでなく、自由貿易協定や政府の政策の結果でもある。政治の課題になった時に傍観してこなかったか、買い物籠に安い輸入肉やエビを入れてきたではないか。食料安全保障が脅かされる事態になって、我が身を振り返っている▼輸入率の高さではトップクラスの大豆。もらったのは、親戚が腰痛に苦しみながら育てた北海道産。た畑の肉ともいわれる黄土色の豆が掌に重い。(今日子)

閉じて休んだり、仲間とのんびり毛づくろいしあったり。岩の上にアカンボウを置いて離れた場所に食事に行くことだってあります。アカンボウの能力を見極めながら、上手に息抜き(?)しているのかもしれませんね。

アカンボウが上手に移動できるようになる頃には、お出かけを止められることはなくなりません。観察しているわたしたちに興味を持って近づいてくるアカンボウも少なくありません。まん丸の目で見つ

めながらぴよこぴよこ近づいてくる様は、悶絶級の可愛らしさです。ああ、もう興奮のあまり脳みそが沸き立ってしましそう…。多くの場合、我が子が観察者に近づきすぎていることに気が付いた母親にすぐさま引き戻されるのですが、中には足元まで来てペタペタと靴を触りまくるアカンボウもいます。もう少し成長すると、わたしたち観察者はわざわざ近づいたり触れたりするべきでない存在になるようで、この「靴タッチ」は期間限定です。



母の制止が緩んだ際に、半径1メートルの冒険

ところで、職場に赤ちゃんが連れて来られれば自然と人だかりができるし、テレビの動物番組でもこぞって赤ちゃんの様子を放送していますね。わたしたちの社会で赤ちゃんは人気者ですが、ニホンザルも赤ちゃんが大好きです。子供のいない若いメスや、その春に出産しなかった子持ちの中年メスたちが、アカンボウに触りたくて入れ替わり立ち代わり近づきます。母親に毛づくろいをしながら遠慮がちにアカンボウに触れるだけだったり、母親から離れて歩いていくアカンボウをそっと抱きかかえてみたり、あるいは大胆にひったくったり。母ザルとの力関係によってアカンボウへのアプローチは様々です。

なかには、母親にとってはちよっと迷惑な押しかけベビーシッターもいます。群れの中での立場の強いメスたちです。立場の強いのをいいことに、あちらこちらのアカンボウを借りては連れ歩き、母親からの返還要請になかなか応じません。母親の元に戻りたくて、アカンボウがもがい



「こっちに…!」。押しかけベビーシッターが、アカンボウを防鹿柵の向こうに置いてきたことに気が付いた直後の一コマ。普段はこんなことはしませんが、とっさにネットの隙間から手を入れてアカンボウを引き寄せようとしています。

ても叫んでもお構いなしです。あまりに長い時間だと、お乳を飲めなくて大丈夫だろうかとか心配になってしまいます。自分の子ではなくても手放しがたいほど、アカンボウは魅力的な存在なのでしょう。そんな彼女たちが翌春に自分のアカンボウを抱いているのを見ると、赤ちゃんに恵まれたことへの祝福の気持ちと母親たちの平穩を思う安堵の気持ちが入り混じります。

思うように外出できない日々が続いています。ロックダウン中のノルウェーでは子猫の様子を延々と生放送する番組があり、国内外から好評を得ていたのだとか。見ていただけで心を和ませてくれる赤ちゃんの存在は素晴らしいですね。ニホンザルの赤ちゃんの力を借りて、みなさんに癒しのひと時をお届けできれば幸いです。

# 品台湾通信

## 「北大珈琲」と「北大紅茶」

～最終回～

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志  
ambifarm@frontier.hokudai.ac.jp

### 台湾で北大と再会

幼い頃から憧れていた北大。ここで学んだことが今も私の誇りです。北大生となってからは、まるで運命に導かれるように台湾へ通うようになり、いつしか移住したいと考えるようになりました。

こうして台湾に移住し、妻の実家のある埔里で台湾生活を始めたのです。そんなある日、愛犬が散歩に連れて行ってくれる緑地が、北海道帝国大学農学部附属台湾演習林であったことを知り仰天しました。そこには北大が建てた台湾演習林事務室が残されており、北海道から遠く離れた台湾で北大と再会できたことに感激しました。そして、この北大台湾演習林で珈琲が栽培されていたこと、2017年に百周年を迎えることを知り、北大への恩返しのために、百年祭を発起したのです。

この百年祭を行うにあたり、北大と台湾の歴史を調べ始めました。すると、日本統治時代の台湾には、台湾演習林の職員だけでなく、300人を超える北大卒業生たちが渡ってきていたことを知ったのです。

### 北大のおかげ？世界一の親日国台湾

実際に台湾で生活し台湾人になって実感したことがあります。それは、日本統治時代を経験した台湾人は農林業やそれに関連していた人が多く、その子孫を含め、ほとんどが親日家であり、日本統治を肯定的に捉えていることです。それは日本の50年に及ぶ統治形態が、いわゆる略奪搾取型のものではなく、投資型のものであり、そのために一流の人材を派遣していたことと関係があります。

台湾総督府の「農業は台湾、工業は日本」の基本政策によって、農学を修めた人材が必要とされ、北大卒業生が重用されたのです。特に、新渡戸稲造が台湾総督府の農林分野を統括する殖産局長に就任してからは、ほぼ北大の独占状態となります。その結果、殖産局の各種試験所、農林学校である農業高校、高等農林、台北帝国大学理農学部において北大閥が形成されていきました。本稿ではそれを代表する紅茶を紹介しましたが、こうして先輩達が結束し、心血を注いで努力した結果、台湾農林業が飛躍的に豊かになったのです。しかし、この「農業は台湾、工業は日本」を支えた人材の多くが北大卒業生であったことは、台湾でも日本でもほとんど知られていません。

### 我、北台（ホクダイ）の架け橋とならん

北大台湾演習林事務室は台湾での北大の象徴でした。ここは「北大の父」佐藤昌介を始めとして、「日本昆虫学の創始者」松村松年など、北大卒業生が集った場所でした。しかし、現在は北大の手を離れてしまい使用することができません。

「義を見てせざるは勇なきなり」

そこで北大の伝統を継承するために、北大台湾演習林事務室の隣に、北大台湾同窓会事務室を置き、北大卒業生が集う場所を復活させたいと思います。ここで当時と同じように「北大珈琲」と「北大紅茶」を飲みながら、北大の歴史を五感で堪能しましょう。コロナ収束後、海外旅行をご検討の北大の教職員、卒業生、現役生の方、次回はこの北台（ホクダイ）でお会いしましょう。



図1 今年建築百年を迎えた台湾演習林事務室  
北大建築の特徴である菱葺屋根が輝く



百年前と同所で再生した北大珈琲 2020年5月

2年にわたる連載の中で、台湾の歴史に北大の先人が大きく貢献したことを知ることができました。執筆していただいた菅さんは、北大と台湾を結ぶ活動をこれからも続けて行かれるとのこと、また機会があれば是非ご寄稿いただければと思います。長期間の執筆本当にありがとうございました。

# 2020年度 通常総代会を開催しました

2020年度通常総代会は  
5月26日(火)開催

総代134名(実出席1名、書面議決133名)の参加により、全ての議案が賛成多数で可決成立いたしました。

2019年度を振り返り、  
2020年度の計画等を  
決定しました

議長に小笠原さん(農学部)を選出し、柿澤理事長(農学研究院教員)が生協理事会を代表して挨拶をしました。続いて、高橋常務理事(理学部)が第1号議案を提案、坂爪監事会議長(農学研究院教員)が監査報告の後、直ちに質疑・討論に入りました。新型コロナウイルス感染症拡大予防対策で、総代の実出席を控えていただき、書面議決書の提出をお願いしました。そのため実質的な討論ではなく、事前に意見集約を行いましたので、報告書でQ&A形式でご紹介する予定です。

理事会からのまとめの後採決を行い、全議案を賛成

多数で承認・可決しました。また、役員選挙は立候補がなかったため定数内の推薦で全員が当選と、選挙管理委員長より報告されました。

また、21名の新旧理事・監事や生協職員がオンライン会議システムで議事進行を見守りました。

## 2020年度の事業計画

生協の事業計画と予算は策定を2月で実質的に終了しており、3月より新年度が開始されています。そのため、今日までに至る新型コロナウイルス感染症拡大予防対策によって生じた営業損失や経費などは、想定していませんでした。

2年連続の赤字による累積赤字が約5000万円、また今年度予算は約2000万円の赤字で計画していました。最終的な赤字は、更に大きくなること予想されます。

今年度は、食堂の予定通りの営業が困難であると判断して、ミールカードの運用を中止しました。その返金が発生したことで利用の

減少が想定されます。人の往来が困難なため旅行商品の返金も発生し、新規の予約もない状況です。入学式中止によるスーツ斡旋への影響や大学祭などイベントの中止による影響も大きいと考えています。

新型コロナウイルスの飛沫感染予防のためにレジ周りに防護用のビニールシートの設置やアルコール消毒液を大量に調達する必要がある想定外の経費も増加しています。

また、生協会館や中央食堂の改修工事も予定されていますが、費用を予算には含んでいません。

不採算店の見直しや部門横断型の業務執行など課題は明確ですので、組合員の皆様の意見を旺盛に取り入れながら事業活動を進めていく予定でしたが、事業計画の再構成が必要になってきます。

今後も厳しい経営状況が続きますが、皆様のご理解とご協力をお願い致します。



小助川専務理事



高橋常務理事



柿澤理事長



## 2020年度の役員名簿

〈理事長(代表理事)〉

柿澤 宏昭

〈副理事長〉

吉見 宏

〈専務理事(代表理事)〉

小助川 誠

〈理事〉

鏡 秀隆

笠原 敏史

稲垣 征哉

中山 拓登

安藤 亮博

高橋 廉

井崎 貴皓

大川 元

金川 眞行

山崎 幹根

小籾 隆生

伊藤 凌

高木 暉馬

奥山 莉子

小林 華

蛭名 美乃里

三澤 建

坂爪 浩史

〈監事〉

久保 淳司

加戸 翔大

今井 佑香

澤田 葉月

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



いつの頃だったか、医学関連書にこんなことが書かれているのを読んだ記憶があります。人類における病の歴史から見て、今後、新型コロナウイルスの大流行が起こり、それにより人口が減少する可能性の方が高い。医学史的見地からの記述だったと思います。なぜか印象に残り、歴史的視点の大切さを示す例として、自分でもときどき授業で話したりしていました。いつかは起こるんだろうな、という漠然とした印象は持っていました。歴史書に述べられる感染症の大流行に関する記録も、自分自身の今の生活とは結びついていませんでした。しかし、大流行はやってきました。

こんな風になるとは、まったく想像していませんでした、というのが正直な感想です。災害救援の教科書には、世界中どこで災害が起きても、三日たてば外部から救援が来る、と書かれていて、でも、二〇一一年の東日本大震災の時は二週間たっても救援が来ない地域があったとは、震災発生直後から救援に携わった知人からの直話です。しかし今回の新型コロナウイルスの大流行は、地球全体が被災地になってしまいました。そもそも外部というものがありません。感染症の大流行も、広義の災害の一つです。

歴史に関する本を読むと、そもそも人間が経験したことのない、という事態なんてそうあるものではない、という気持ちになります。東日本大震災の津波被害には震撼させられました。歴史の本をあらためて読んでみれば、類似の被害の記述は幾つもあったのです。しかし、災害はきわめて多くの要因が関与する大規模な出来事ですから、一つ一つが違わずです。以前の災害を念頭に置いて対処する我々は、一つ前の戦いを戦っている將軍のようなものかもしれないとは、一九九五年の阪神淡路大震災の記録に述べられていたことです。まったく新しい事態だと思っていたら、過去に繰り返されてきたことだった、ということは色々な領域においてよくあることだと思えますが、か



言って、まったく同じことも起こらない：難しいな、と思います。災害においては、状況が刻々と移り変わってゆく、ということがあります。阪神淡路大震災の時、北海道から神戸に毎月、一年間定期的に通って痛感したことです。しかし、変化そのものがストレスをもたらします。被災地にいることは、緊張を強いられることでした。救援活動を終えて、被災地を離れる時、すーっと緊張がほどけてゆくのを感じました。しかし今は、誰もが被災地に暮らすことになり、しかも被災していない外側というものがありません。そもそも、移動もままなりません。私は新型コロナウイルスの大流行が始まって以来、すごく疲れやすいと感じるのですが、皆さんも同じでしょうか。災害時には、アルコールの消費量が増えがちである、ということも実感するところだと思います。どうも甘いものを食べたくなるという傾向も、見聞きします。糖分とアルコールは化学的構造が非常に似ていて類似の依存性がある、という説を読んだことがあります。社会変動が激しい時期にはアルコール・薬物依存が増えるということは知られていきますから、今の状況でも注意がいりそうです。

ある時代を懸命に生き残った者は、次の時代に生きづらい、という指摘があります。懸命に対処すると、対処パターンがその状況に適合したものになり、しかも、余力を残さない努力は、次の変化に対応する柔軟性を損なう、ということかと思えます。先の見えない現今の状況下、重要なのは常に余力を残そうとすること、かもしれません。そもそも、余力を残せる条件に無い沢山の人々を生み出す状況が大問題、なのですけれど。

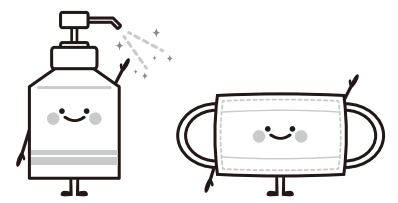
# ほけんのお話

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、テレワークや外出自粛等で接触機会を少なくするなど、日常の行動の変更を余儀なくされています。大学も卒業式や入学式の中止、休校の長期化やEPA授業の実施、大学職員の出勤体制の変更など、大学内の教育活動や運営に大きな影響を受けています。職域生協である大学生協も、学内に滞在する人口が減少することにより、食堂や購買の供給が激減し、経営に大きな影響を受けています。

大学内にある損害保険代理店である北海道協同保険サービスへの影響は、学会や研究活動、海外インターンシップ、海外旅行で多くの教員や学生のみならず、利用されている海外旅行保険のキャンセルが続き、契約がありません。新歓や交流のイベント、部活がないので、行事参加者傷害保険や国内旅行傷害保険などの契約がありません。海外からの留学生や研究者の中には、帰国できないため、賃貸マンションの火災保険を延長することや無保険状態を回避するための問い合わせもあります。損害保険の現場から見ても、大学を構成するみなさんの活動や仕事が制限され、新入生は新生活のスタートという希望溢れる季節が奪われたりして、影響が大きいことがわかります。

損害保険は、多くの方々  
が安心して活動すること、  
元気に生きることが経済的に  
支えるためにあります。  
生活や遊びそして仕事、社  
会や経済活動が戻ることが  
損害保険の仕事の条件であ  
ることは他業種と同じです。  
政府や自治体は、新型  
コロナの感染を収束させる  
と同時に、中小の事業者や  
個人事業者を守ることに集  
中してほしいところです。

## 感染予防



# 北大キャンパスの遺跡人行こう

## 第7回 竪穴住居址と竪穴の窪み

北海道大学埋蔵文化財調査センター 高倉 純



植物園内の竪穴の窪み (遺跡トレイルウォークの際の測定の様子)

### 竪穴住居址とは

北海道大学の構内で続縄文や擦文文化の時期の遺跡を発掘していると、しばしば竪穴住居址と呼ばれる遺構に遭遇します。竪穴住居址とは、地面を掘り込んで作られた住居の痕跡です。日本列島の先史・古代の遺跡から発見される、最もポピュラーな遺構の一つで、北海道大学構内の遺跡からも、これまで120基以上の竪穴住居址が調査されてきました。

竪穴住居址の調査は、どのようにして進められるのでしょうか？ここでは、大学構内の北部に所在する、平成26年に実施された国際科学イノベーション拠点施設地点での



写真1：竪穴住居址の確認状況

発掘調査から発見された、第一号竪穴住居址（HP01）の事例をご紹介します。この住居址は、擦文文化のなかでも9世紀頃に残されたと思われるものです。

### 竪穴住居址の発掘

発掘調査では、最初に耕作土の除去がおこなわれました。そうすると、河川の作用で堆積したと考えられる黄色土が、調査区内のほぼ全域に分布していることが確認できました。しかし、そのなかに黒色土が径4〜5m程の範囲に部分的に認められました（写真1）。

擦文文化の竪穴住居址は一般的に、一辺の径が4〜7m程で、平面形は隅丸方形を呈しています。このことをふまえて、我々はこれが擦文文化の竪穴住居址ではないかと考えました。黒色土は、住居としての利用が終了した後の竪穴内に堆積したもので、周囲にみえる黄色土よりも後に堆積したために、色調が明瞭に異なっていたようです。

遺構の内部に堆積している地層のことを考古学では「覆土」と呼びます。竪穴住居址の調査では、その覆土を一枚ずつ剥していく作業がおこなわれていきます。ただし、その際には、地層観察のために、十文字状の「ベルト」と呼ばれる部分を意図的に掘らずに残します（写真2）。そうすることによって、竪穴住居址の内部にどのような地層が堆積しているのかを綿密に観



写真2：竪穴住居址の調査

察できるようになります。それぞれの覆土からは擦文土器が出土してきました。住居として利用するために掘り込まれた竪穴の形を正確に掘り出し、ベルトの観察・記録と掘削が終了すると、完掘となります。写真3はこの竪穴住居址の完掘状況を撮影したものです。この住居址の手前側の一角には、調理施設としてカマドが設けられています。これも調査の過程でわかりました。

### 竪穴の窪み

竪穴住居は利用が終了した後、周囲から堆積物がその内部に徐々に埋積していくのですが、北海道では完全に埋まらず、窪みの状態が現在



写真3：竪穴住居址の完掘状況

でも地表面で確認できる遺跡が数多くあります。明治の頃には、札幌市域にもそうした竪穴の窪みがおびただしく確認できたようですが、その後の市街地化によって、多くは姿が見えなくなってしまう。しかし、北海道大学構内北部の陸上競技場に隣接する遺跡保存庭園内、あるいは植物園内には、現在でもそうした竪穴の窪みが確認できる箇所があります。大学構内に竪穴住居址のような遺構の存在を地表面で確認できるといっては、きわめて珍しいことと言えるでしょう。先人の営みの蓄積の場に大学があるということが、その場に立つとよくわかります。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

## 北大生協組織委員会報告

### フォトコンテスト 延期のお知らせ

例年6月号で開催していましたが、新型コロナウイルスですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学内への立ち入りが制限されたりと、まだまだ平常の大学生活を送れない現状を考え、開催時期を延期とさせていただきます。

楽しみにしていた皆様申し訳ありません。

開催時期は今のところ未定ですが、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい状況が落ち着きましたら、開催したいと考えております。写真は撮りためておいていただき、コンテスト開催時には是非ご応募ください。

### 留学生委員会

4月・5月に開催予定としておりましたが、留学生委員会主催ウェルカムパーティーと中古自転車譲渡会についてですが、新型コロナウイルスをめぐむる状況を鑑み、誠に残念ながら中止としました。楽しみにされていた皆様へは大変申し訳ありませんが、なにとぞご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 学生会委員会

■新企画「月刊G」を始めます

この度、学生会委員会では普段学生会委員会がどのような活動をしているのかを組合員のみならず、月に1回学生会委員会で行った活動を紹介する「月刊G」というものを5月15日から発行を開始します。

HPやTwitter、また一部生協店舗での投稿・掲示を予定していますので、もし見かけられた場合は立ち止まって読んでいただけると嬉しいですよ！

これから毎月15日の更新を予定していますので、これから楽しみにしてください。

■学生会委員会公式HD

<http://hokudaiqi.web.fc2.com/>

■学生会委員会公式Twitter

@HU\_COOP\_GI\_CS

学生会委員会の活動や学生会委員の様子など、学生会委員のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをどうぞご覧ください。

■学生会委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生会委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。

これからの学生会委員会をよろしくお願います!!

### 院生委員会

■ほんでないかいブース設置

クラーク書籍にて書評誌「ほんでないかい」で紹介された本のブースが設置されました。大学立ち入り禁止されているため、院生委員会Twitter (@Hokudaisei.coop) において一日一冊ずつ本を紹介しています。自粛期間が明けたら書評誌「ほんでないかい」の实物を受け取り、書籍部に立ち寄って気になった本を手にとってみてください。



■院生委員会公式Twitter

@Hokudaisei.coop

新型コロナウイルスの影響で大学に来れない大学院生に向けて情報発信するために、再稼働させました。「ほんでないかい」おすすめ本の紹介や大学院生向けのさまざまな情報発信、アンケートなどを実施しています。大学院生や大学院進学予定の学部生のみならずぜひご覧ください。

■院生委員会連絡先

hokudai\_insei@coop.hokudai.ac.jp

現在、院生委員会では新型コロナウイルス感染拡大を受けて大学院生のみならずどのような活動・サポートができるか検討中です。困っていることや要望があればぜひご連絡ください。

### 教職員委員会

■教職員総代会議…学内7ヶ所

8月・1月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様にご利用の立場から色々なご意見をうかがっています。

4月・5月ともに、新型コロナウイルス感染リスク回避のため、集まったの会議は中止とし、議案書をメールに添付して、総代の皆様へ報告させていただきました。

■教職員委員会…毎月1回、18時から開催しています。総代会議であがった組合員の声や、「きぼうの虹」に掲載する記事内容について討議しています。4月16日・5月14日に、時間を短縮して開催しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

2年間連載していただいた初の海外からの寄稿文「台湾通信」が今号で最終回となりました。毎号、初めて知る興味深い内容ばかりで、原稿到着が楽しみでした。皆さんにはお忙しい家業の中、長い間ご寄稿ありがとうございます。

【編集後記】

コロナの影響で毎月の総代会議も開催出来ない状態が続いています。こんな時だからこそ、日頃培っているネットワークを活かさねば、と思います。信頼関係があれば、弁当を配ってオンライン会議、也十分ありかなと。組織委員も各総代会議開催単位で一人以上が目標です。関心ある方は一報を。